

# 令和3年11月号 (2019 撮影)

## 1. ムクドリ【椋鳥】 (スズメ目ムクドリ科) (デイパーク大府遊歩道周辺)

体長24cmほど。ヒヨドリより一回り小さいぐらいです。日本ではほとんどの地域で見ることが出来る留鳥です。寒い地方では、冬は南に移動するようです。雑食性で、色んなものを食べるようです。椋の実を好んで食べるので、ムクドリと名前が付いたようですが、なんでも食べるようです。これから冬になってくると、周囲のムクドリたちが集まり、大群で眠ることもあります。たくさん集まったムクドリたちの声はかなり大きな声になるようです。昔は農作物をあらず害虫を食べてくれていたため、農林鳥とも呼ばれていましたが、環境変化に伴い、都市部に適応したムクドリたちの鳴き声、



化に伴い、都市部に適応したムクドリたちの鳴き声、フン害などで問題になり、1994年に狩猟鳥に指定されたようです。また野鳥観察する時に、大きさを表すのに、ムクドリより小さいとか大きいとか、ムクドリを物差しとして使用することが良くあります。またムクドリの漢字、「椋」を見ると、子供の頃によく読んだ作家の椋鳩十を思い出しますが、ムクドリとは関係なく、椋木にハトが十羽ぐらい止まるという意味だっ



たようです。

昔は畑を守る益鳥、いまは都市部で、フン害などを起こす害鳥にされています。人間の生活様式の変化や環境破壊などで、人間が害鳥を作りだしているんでしょうね。ムクドリから勝手に変わったわけではないですからね。